ふじみ野

No.83
R8.11.1 発行
埼玉県ふじみ野市議会

市議会だより

CONTENTS

市誕生 20 年から将来を見据えて　p2
市政を問う！ 一般質問 17 人が政策論議　p9
高校生が描く「もっと住みやすいふじみ野市」　p17
連載企画 子どもたちに聞きました　p17



働く人シリーズ㊷　かき氷屋さん

氷を細かく削り、シロップや果物などをのせたかき氷を作って販売する仕事です。最近は、ふわふわの氷や季節の果物を使ったメニューの開発、写真を撮りたくなる見た目の工夫に加え、ＳＮＳでの発信も仕事の一つになっています。

（裏表紙に関連記事を掲載）

市誕生20年から将来を見据えて

令和8年第3回定例会
9/1 ▼ 9/29

令和8年第3回定例会では、令和8年度一般会計補正予算、令和7年度一般会計決算など各会計決算、市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例の一部を改正する条例、市立子育て支援センター条例の一部を改正する条例、市長の給料の減額に関する条例などが市議会で慎重に審議され、市長提出議案29件全てが可決されました。











令和7年度一般会計決算

市税収入は増額

問 市税収入の状況と主な増収要因は。

答 市税全体では、現年課税分調定額として、約13億2600万円の増額となった。個人市民税は約8億7700万円の増額となった。これは、生産年齢人口の増加に伴う納税義務者の増加や、賃上げ等の影響による給与所得者の収入増加によるものである。

法人市民税は、約8千万円の増額となった。医療・福祉・情報通信業で減額があったものの、建設業やサービス業において大手企業の業績が好調であったことによるものである。

固定資産税は、約3億900万円の増額となった。これは、住宅や大規模倉庫の新築等による増加と企業の設備投資額が減価償却分を上回ったことによるものである。都市計画税は、約5400万円の増額であった。これは、固定資産税と同様に、家屋の新築等に伴う増額によるものである。

問 財政健全性の指標の動きと評価は。

答 令和7年度決算の経常収支比率は98・3%となり、令和6年度と比較して1・2ポイント減少した。人件費や物件費等の経常経費が増加したものの、経常収入の増額が上回ったためである。

将来負担比率は、マイナスを維持しており、充当可能な財源が将来負担額を上回っている。

市誕生20周年記念事業

問 事業の実施結果と効果は。

答 市主催事業は37事業を実施し、約2万4千人が参加した。

連携事業は27事業を実施し、約28万人が参加した。推進体制は、公募市民による市民企画会議や各団体代表による実行委員会が設置され、企画・広報等の検討、キャッチフレーズやシンボルマークの選定等が進められた。

市民企画会議からの提案事業では、会議メンバーのほか、地域の音楽家・包括連携協定締結大学・行政等が協働で準備や当日の運営や広報活動などが行われた。

結成された市民合唱団は公演後も継続して活動を行っており、人と人とのつながりが育まれた。

ふるさと納税型クラウドファンディングとして、みんなで第九を歌う、ふじみ野市産のお酒の製造、子どもたちへの記念給食提供の3プロジェクトが実施され、幅広い主体・市民の参画を得た。

効果としては、市民と行政等が一体となって事業を推進した結果、推進方針に掲げられた市への愛着の醸成、市民・行政等の一体感の醸成、まちづくりの機運醸成が図られた。今後の協働のまちづくりや地域力の向上へとつなげていきたい。

情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例の一部改正

行政手続のオンライン化

問 現状と条例改正の狙いは。

答 現状としては、行政手続の全1282件の内、オンライン化対応は118件にとどまっている。

そのため、条例を改正し、対象根拠を条例・規則から告示・要綱等を含む規定全般へ拡大することにより、手数料等の電子納付を含めたオンライン手続の拡充と業務効率化を推進する。

◆議案に対する質疑

青藍会 板倉 篤 議員
チームふじみ野 鈴木啓太郎 議員
公明党 鈴木 美恵 議員
日本共産党 塚越 洋一 議員
会派外の議員 民部 佳代 議員

令和7年度 一般会計 決算の特徴

※万円未満四捨五入

歳入 …増減した主なもの

市民税
令和7年度 91億4,262万円
対前年度比 9億5,212万円

固定資産税
令和7年度 75億3,981万円
対前年度比 3億751万円

国庫支出金
令和7年度 104億3,953万円
対前年度比 7億3,400万円

市債
令和7年度 44億340万円
対前年度比 22億1,585万円

歳入 決算総額 554億4,264万円
前年度対比 11.3%増（56億2,934万円）

歳入歳出差引額 28億6,335万円

歳出 決算総額 525億7,929万円
前年度対比 11.6%増（54億5,619万円）

実質収支額 22億2,926万円
翌年度へ繰り越すべき財源 6億3,409万円

歳出 …増減した主なもの

人件費
令和7年度 64億6,083万円
対前年度比 3億2,024万円

扶助費
令和7年度 153億5,905万円
対前年度比 8億1,189万円

公債費
令和7年度 43億9,034万円
対前年度比 1億4,539万円

普通建設事業費
令和7年度 75億8,574万円
対前年度比 29億1,193万円

※端数処理の結果、数値が一致しない部分があります。

市誕生20周年で地酒を製造

観光事業

市誕生20周年を記念し、市内で採れた米を使った地酒である河岸の蔵が製造され、海中熟成酒も造られました。事業内容や効果について質疑が行われました。

問 市誕生20周年を記念して造った地酒、河岸の蔵の実績は。

答 市内産米100％で1500本を醸造し、うち600本を、静岡県下田市の海底に沈め海中熟成した。酒販店や飲食店で販売・提供し、令和7年12月に完売した。「非常においしかった」「海中熟成酒を初めて見た」などの声があった。

問 令和7年度の課題を踏まえ、今後の展開は。

答 令和8年度は2300本を醸造、大型店2店舗、50店舗以上の飲食店で提供している。産業まつりや環境フェアなどのイベントで、販売、周知、PRをしていきたいと考えている。

わたしもひと言



近隣市町には地酒があります。ふじみ野市でも地産地消でお酒が造れたらの思いから、地酒を造りました。市内産の米「彩のきずな」100％使用です。かつて福岡河岸にありました回漕問屋の土蔵のイメージで「河岸の蔵」の名前がつけられました。地元の皆様に愛される酒となってくれると良いです。

観光協会
地酒造りプロジェクト
古川 惣一さん

シティプロモーションで魅力発信

ホームページ管理運営事業

令和7年度のシティプロモーション事業について、動画広告の展開やYouTubeの視聴回数など、その効果について質疑が行われました。

問 どのような広告展開をしたのか。

答 テレ玉のデータ放送やPR TIMESという民間企業の情報提供サービスを活用した広告を行った。県が災害救助法の適用を受け、PR TIMESを無償で活用し、PR活動を行った。

問 プロモーション動画の実績は。

答 J:COMで1日2回のCM放映や、池袋の副都心線改札前のデジタルサイネージを1ヵ月間一括ジャックしたほか、市近郊のスシロー4店舗、ところざわサクラタウンにて動画を放映した。

問 事業の政策効果は。

答 実施した時期に合わせて、YouTube掲載のシティプロモーション動画視聴回数が増えた。各所の広告に合わせ視聴回数が増え、効果も実証できた。



市ホームページのバナー

社会保険労務士による年金・労働相談を実施

市民相談事業

市民総合相談では、法的な手続や家庭内のトラブル、日常生活の様々な悩みなどに対応しています。令和7年度から始まった社会保険労務士による年金・労働相談について質疑が行われました。

問 令和7年度から始まった社会保険労務士による専門相談の実績と、相談者からの声は。

答 年金・労働相談を、市役所本庁で毎月第2火曜日に実施している。令和7年度は12回実施し、33人が利用した。相談員がとても親切で、丁寧に説明してくれて助かった、特に障害年金や傷病手当について相談者からは、年金事務所に行かなくても相談できてよかったとの声があった。

問 1回の相談で何人程度の予約を受けられるのか。

答 午前中の2時間で、1人当たり30分の4枠となっている。

問 年間で48枠だが、実績は33人となっている。キャンセル待ちがあるのか、すぐに相談を受けられる状況か。

答 開始当初の4月、5月は周知が行き届かず、相談枠が埋まることはなかったが、8月以降は4枠全て予約が入る状況になっている。

どうしても当日来られない人もいるが、1ヵ月待っていただくような状況にはなっていない。



市役所で専門家に相談できる

子どもの可能性を未来へつなぐ学習・進路支援

子どもの進路選択支援事業

生活困窮世帯の子どもに寄り添い、貧困の連鎖を防ぐ進路選択支援事業が令和7年度から実施されました。実績と成果、今後の支援について質疑が行われました。

問 支援の内容と実績は。

答 専門の支援員が家庭を訪問し、学習や生活環境の改善、進路選択、奨学金の活用などを助言する。令和7年度は対象者49人のうち41人が登録し、37人に学習支援を開始した。

問 進学や就職につながった成果は。

答 高校生9人のうち5人が進学し、2人が就職した。福祉資金貸付手続の支援で、専門学校に入学した事例もある。進路情報の共有は保護者への支援にもつながっている。

問 今後支援をどう充実させるか。

答 短期間で成果を得ることは難しく、長期的な信頼関係の構築が必要である。

小学校高学年から支援員との関係を築き本人の自主性を十分に尊重しながら将来の夢をともに描き、その実現に向けて継続して支援していくことが重要であると考えている。

わたしもひと言



ケースワーカーも日中の家庭訪問では子どもと直接話す機会が得にくいです。子どもの支援に長けた専門の支援員が直接家庭訪問を行い、信頼関係を形成します。大人と日常的に関わり、将来像を考える機会を提供しています。そのことにより、子どもが自分にも可能性があると意識転換できる点が大きな効果です。

市生活福祉課副課長
田中 裕樹さん

令和７年度

一般会計決算討論

賛成多数で可決

賛成　市民生活を支え将来に備える決算

青藍会　板倉 篤 議員

令和7年度決算は、税収増や収納率向上、RPAによる業務効率化に加え、子育て・福祉・防災などで一定の成果が見られた。今後も財源を有効活用し、市民サービスの充実と持続可能な財政運営につなげることを期待する。

なお、議決前着工という重大な問題については再発防止策の徹底と実効性の検証を強く求め、決算認定に賛成する。

反対　適正な手続と説明責任を

チームふじみ野　鈴木 啓太郎 議員

下福岡城山公園の土地購入では、必要性や価格の妥当性について説明が尽くされていない。福岡中学校工事など16件に及んだ議決・契約抜きの工事着手では、全容や責任の所在が明らかになっていない。さらに、約56億円の基金の債券運用では、長期保有による流動性やリスク管理に課題がある。市民の財産を守るため、適正な手続、十分な検証と説明責任を求める。

賛成　持続可能な市政を支える財政運営を

公明党　鈴木 美恵 議員

実質収支は約22億3千万円の黒字、財政調整基金残高は約36億5600万円で、収納率は約99.6％となり、財政は安定している。一方、経常収支比率は98.3％と高く、将来負担への備えが重要である。物価高騰対応をはじめ、子育て・教育、防犯・防災、環境、公共施設整備など市民生活に必要な分野の事業推進と市誕生20周年記念事業を評価し、持続可能な財政運営を求める。

反対　市民生活支援の物価高騰対策不十分

日本共産党　塚越 洋一 議員

物価高騰で苦しい市民生活を支援するための対策が国からの財源枠の範囲にとどまり、市独自の財源投入が極めて不十分である。なんのための基金なのか。

工事契約変更の法律違反を含む決算は承認できない。行き過ぎた民営化により採算と利益が優先され、安定的継続性が危うくなっている。公共を取り戻すことが喫緊の課題だ。

賛成　市民に寄り添い将来を見据えた決算

会派に属さない議員　民部 佳代 議員

がん患者や医療的ケア児に対する事業など、市民に寄り添う事業を行った。

資材高騰等の中でも公共工事は計画通り完了した。一部手続の瑕疵はあったが、市民の財政的負担はない。上野台小学校用地取得も優位な価格で実現した。

金利上昇を見据え利子負担を抑制、基金も約6割が現金であり損切りリスクはなく健全である。

賛成　成果を数字で検証し、次の改善へ

会派に属さない議員　金濵 高顕 議員

市税の不納欠損額が減少し、時効による不納欠損がなかったことを評価する。生活保護世帯の子どもの進路選択支援事業では支援が始まり、進学等の成果も確認できた。元気・健康マイレージ事業では新規参加者が増え、GIGAスクールでも端末活用が伸びた。事業の実施だけで終わらず、成果を数字で検証し、次の改善につなげる行政運営を期待する。

条例改正
賛成多数で可決

施設の集約化による子育て支援の充実

市立子育て支援センター条例の一部改正

条例の一部が改正され、霞ケ丘子育て支援センターが閉室される予定です。上野台、大井の両センターの事業計画や目標について質疑が行われました。

問　集約により上野台、大井子育て支援センターの職員体制に変更は。

答　現在、両子育て支援センターの職員体制を変えることは考えていない。

問　両子育て支援センターの事業の拡充は。

答　霞ケ丘子育て支援センターに派遣されていた人材を、両子育て支援センターにおける事業実施の拡充・充実に充てていきたいと考えている。

問　利用者への周知は。

答　上野台、大井子育て支援センターで引き続き利用できることをお話ししたい。

また、霞ケ丘子育て支援センターの近くにあるサービスセンターの1階に子育てふれあい広場があり、様々なイベント、講座、相談も受けていることを案内する。

問　出前子育てサロンと子育て支援センターの機能の違いは。

答　出前子育てサロンでは、相談だけではなく、様々なイベントなどを行っている。これは、子育て支援センターを知るきっかけづくりと考えている。



閉室予定の霞ケ丘子育て支援センター

補正予算
賛成多数で可決

旭ふれあいセンター改修で利便性向上へ

令和8年度一般会計補正予算（第3号）

旭ふれあいセンターと旧大井商工会館の改修に向け、外壁や屋上防水、LED化などの工事費を含む補正予算が計上されました。

問　主な改修内容は。

答　旧大井商工会館の間仕切りの設置を行うほか、旭ふれあいセンター施設内のLED化、屋上防水の工事、外壁改修、施設裏面の階段の撤去作業、またトイレの改修も行う予定である。

問　工事のスケジュールは。

答　設計業務、部屋の間仕切り、足場の設置は今年度中に行う。繰越しにより2年かけ、令和9年2月、3月からスタートする。

問　施設裏面の階段を撤去する理由は。

答　老朽化し危ないことと、今回の改修工事にも影響するため撤去する。消防本部からは、ほかに避難経路が確保できているのであれば、撤去は問題ないとの回答をもらった。

問　間仕切り後に空く部屋は、貸室として利用するのか。

答　現時点では、どのような利用かまでは決まっていない。様々な活用方法があるため、今後検討していきたい。



さらに親しまれる施設へ

市政を問う！

一般質問

一般質問とは、議員が市政全般にわたり、市の考えを問うものです。今回の議会では、17人の議員が一般質問を行いました。掲載した内容は各議員本人が要約したものです。なお、全ての質問と回答は市議会ホームページの会議録で閲覧できます。（11月下旬掲載予定）
各議員の二次元コードから、それぞれの一般質問の録画放映を視聴できます。



行政による議員の発言原稿作成

坪田　敏孝　議員

問　2025年、苫小牧市で議会最大会派の議員の質問に対して、市が発言原稿を作成するよう指示していたことが発覚した。議員の議会での発言原稿作成の有無についてうかがう。

答　市職員が、議会での議員の発言原稿を作成することはないと認識している。

問　工事の単価の額の記載はなかったと認識している。

ビジネススキル教育

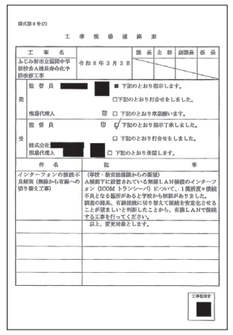
問　本市の学生、若者、事業者、被雇用者、定年後の住民に、年齢を問わず、MBAスクールのような国際標準のハイレベルな教育を提供したり、経済社会で生き抜いていく上で必要なビジネススキル教育を行う考えは。

答　ビジネススキル教育は、企業の利益追求や個人の経済的価値向上が根底にあり、社会教育に組み込むことには慎重に研究していく必要がある。

議決なし工事指示時の金額合意

問　国の設計変更ガイドラインに基づき、指示書にて工事の指示を出したとのことだが、金額の合意はあったか。

答　工事の単価の額の記載はなかったと認識している。



金額の記載がない、中学校追加工事の現場連絡票（令和8年3月3日）



学校施設の避難訓練

野口　一也　議員

問　火災場所が避難経路上にあった場合の訓練は。

答　消防法に基づく各学校の消防計画にのっとり、出火場所を変えて避難経路の一部が使用不可になる状況や管理職が不在の場面を想定するなど、様々な条件を意図的に設定した実践的な訓練を実施している。

問　教職員の救助器具操作訓練は。

答　操作訓練を実施している学校や同種の形式の救助器具がある学校で訓練を実施する際に、別の学校の教員も参加し使用手順の確認を行っている。

公共施設の避難訓練

問　火災場所が避難経路上にあった場合の訓練は。

答　避難経路上を含めた火災場所を想定した、目的や狙いに応じた訓練を行っている。

問　市職員の救助器具操作訓練は。

答　公共施設で発生する火災事案を想定し、専門業者の協力を得た職員訓練の実施に向けて、市包括管理業務委託業者と協議している。



関係機関と連携した避難訓練

令和8年第3回定例会の提出議案等と審議結果

●全会一致で可決した議案

議案番号	議案名	議決結果	議案番号	議案名	議決結果
第63号議案	令和8年度ふじみ野市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）	可決	第78号議案	ふじみ野市道路線の変更について	可決
第64号議案	令和8年度ふじみ野市水道事業会計補正予算（第1号）	可決	第79号議案	ふじみ野市道路線の変更について	可決
第66号議案	令和7年度ふじみ野市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	第80号議案	ふじみ野市道路線の変更について	可決
第67号議案	令和7年度ふじみ野市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	第81号議案	ふじみ野市道路線の認定について	可決
第70号議案	令和7年度ふじみ野市下水道事業会計決算の認定について	認定	第82号議案	ふじみ野市道路線の認定について	可決
第71号議案	ふじみ野市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例の一部を改正する条例	可決	第83号議案	教育委員会委員の任命について	同意
第72号議案	ふじみ野市認可地縁団体印鑑条例の一部を改正する条例	可決	第84号議案	固定資産評価審査委員会委員の選任の承認を求めることについて	承認
第75号議案	文化施設（上福岡西公民館分）大規模改修工事請負変更契約の締結について	可決	第85号議案	固定資産評価審査委員会委員の選任について	同意
第76号議案	ふじみ野市運動公園野球場改修工事請負変更契約の締結について	可決	第86号議案	固定資産評価審査委員会委員の選任について	同意
第77号議案	ふじみ野市道路線の変更について	可決	第87号議案	固定資産評価審査委員会委員の選任について	同意

●賛否が分かれた議案等

○：賛成　×：反対

議案等番号	議案等名	議決結果	青藍会									チームふじみ野					公明党			日本共産党		会派に属さない	会派に属さない
			野口　一也	田中　早苗	川島　秀男	前田　広子	鈴木　宏樹	板倉　篤	加藤　恵一	小林　憲人	山田　敏夫	小林　久美	坪田　敏孝	近藤　善則	原田　雄一	鈴木啓太郎	古越　孝子	鈴木　美恵	川畑　京子	床井　紀範	塚越　洋一	金濱　高顕	民部　佳代
第60号議案	令和8年度ふじみ野市一般会計補正予算（第3号）	可決	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
第61号議案	令和8年度ふじみ野市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	可決	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
第62号議案	令和8年度ふじみ野市介護保険特別会計補正予算（第1号）	可決	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
第65号議案	令和7年度ふじみ野市一般会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	○	○
第68号議案	令和7年度ふじみ野市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
第69号議案	令和7年度ふじみ野市水道事業会計決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
第73号議案	ふじみ野市立子育て支援センター条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
第74号議案	ふじみ野市立東原小学校校舎大規模改造工事請負契約の締結について	可決	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
第88号議案	市長の給料の減額に関する条例	可決	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○
動議	市長が全員協議会で述べた議決前に工事した例が数件あったという件について緊急質問を求める動議	否決	×	×	×	×	×	×	議長	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	×	×
動議	市ホームページに公表された変更契約に係る不適切な事務執行16件について調査特別委員会設置を求める動議	否決	×	×	×	×	×	×	議長	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×

※議長は採決には加わっていません。



所有者不明土地等の適正管理

板倉　篤　議員

問　市内の実態、課税できていない額は。

答　相続人不存在が確定している不動産所有者は27名、相続人等調査中の不動産所有者は8名の合計35名となっている。固定資産税で約103万円、都市計画税で約23万円が課税保留となっている。

問　財産管理制度を活用した不動産の適正管理の取り組みは。

答　空家対策の観点から令和8年度より相続財産清算人制度も活用して解決を図っていく。

サクラ等の樹木の害虫被害

問　公共施設においてクビアカツヤカミキリ被害が確認された事例は。

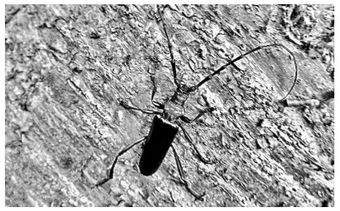
答　7月末の公共施設安全点検週間に合わせて調査を行った。その結果、西原小学校、元福小学校、上野台小学校、大井東中学校、弁天橋付近での被害が確認された。

問　国や県の財政支援の活用状況は。

答　現時点での活用はないが、今後県のネイチャーポジティブ推進事業補助金を活用することを予定している。

問　民有地での防除に対する支援は。

答　市が県の補助金を活用して薬剤を散布する場合について支援ができることを県に確認している。



害虫からサクラ咲く風景を守ろう



広域避難・大規模災害に備えて

田中　早苗　議員

問　地域防災計画上の広域避難及び要支援者支援の位置付けは。

答　市内での指定避難所の確保が困難な場合に広域避難を検討する。県外の自治体とも相互応援協定を締結し、災害状況に応じ、広域的な連携体制の構築を図っているところである。

　要支援者支援の位置付けは、高齢者、障がい者、乳幼児、外国人その他特に配慮を要する者のうち、災害時に自力避難が困難な者である。

問　災害関連死の未然防止の考えは。

答　避難所における熱中症対策や衛生管理、避難生活の長期化に伴う健康悪化や災害関連死を未然に防止することは新たな課題であると認識している。

問　自助による分散・広域避難後の支援は。

答　災害時に避難者が安心して避難生活が送れるよう、分散・広域避難に対する支援方法を、検討していく。

災害後の子どもの心のケアの充実

問　学校現場におけるケア体制は。

答　市やスクールカウンセラー等の専門職を学校へ派遣し、児童・生徒への直接的なケアを行い、教職員や関係機関との連携ができるよう組織的に支援していく。



体育館でも快適に過ごせるように



これからの時代を生きる子どもたちの教育

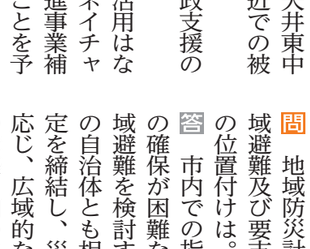
金濵　高顕　議員

問　金融教育について、小学校から中学校までの9年間を通して、発達段階に応じた学びをどのように進めているか。

答　学習指導要領に沿い、お金や金融について継続的、体系的に授業を実施している。

問　義務教育を終えるとき、子どもたちにどのような人に育っていてほしいと考えるか。

答　自分の人生に軸を持って生き方を高め、ふじみ野市が大好きで、温かいコミュニティーを自分も一緒につくっていこうとする子どもを一人でも多く育てたい。



消防車や救急車が入りにくい道路への対策

問　消防車や救急車が入りにくい道路について消防本部と情報共有し、道路整備の優先順位の判断材料にしては。

答　これまでは情報共有していなかった。今後は消防本部などと情報共有し、狭あい道路対策として待機場所や隅切り用地の用地取得を計画する際の判断材料にする。



HPV個別情報提供の充実

古越　孝子　議員



届いた案内が後押しに

問　未接種の中学2・3年生に、改めて個別に情報を届ける考えは。

答　他自治体の取り組み等も参考にし、より実効性の高い情報発信の在り方を検討する。

20価肺炎球菌の市独自助成

問　定期接種の対象とならない高齢者への市独自助成は。

答　現在、考えていない。国の動向等を注視し、効果的かつ持続可能な保健事業の在り方を研究する。

成年後見制度見直しへの対応

問　中核機関のさらなる充実に向けた相談や連携は。

答　本人の意思や生活状況、支援の必要性を確認し、制度を必要とする人を早期に発見し、相談につなげ、適切な支援を受けられるように努める。

働く学びで闇バイト防止

問　専門家による出前講座等を活用し、働くことを学ぶ機会を充実しては。

答　弁護士や税理士等の専門家による出前講座を実施し、働く意義、労働者の権利や義務、アルバイト等のトラブル、お金の使い方等について学んでいる。



無料市民相談にオンライン相談導入を

前田　広子　議員

問　無料市民相談の利用状況と課題は。

答　令和7年度の相談件数は1737件で、相談内容の傾向は、弁護士相談・行政書士による生活総合相談・女性のためのDV総合相談などが多く、最もニーズが高いのは、相続に関する相談である。

　課題は、来庁が困難な相談者への対応である。

問　オンラインによる市民相談の導入の考えは。

答　オンライン相談のメリットや課題を十分に整理し、課題の解決など調査研究を進めていきたい。

市公式LINEを活用した市民サービス

問　LINEを行政サービスの入り口として活用しては。

答　今後メニューボタンの機能拡充により、最大20ボタンまで大幅に表示数を増やすことができる。オンライン申請画面へアクセスするなど、利便性向上につながると考える。

問　防災・災害情報と市公式LINEの連携は。

答　利用者のスマートフォンで緊急性の高い情報を取得できるようにする。また、防災行政無線システムと連携し、市公式LINEで通知されるようにし、防災や災害情報の通知手段としても活用が広がると考える。



（イメージ写真）

市公式LINEが便利にリニューアル予定



防災協定に使われる立体駐車場



大規模災害に備えた備蓄と民間連携

川島　秀男　議員

問　避難所生活が長期化した場合、生活環境の向上に向けた備蓄はどうなっているか。

答　本市では、折り畳み式簡易ベッド500基、段ボールベッド100基、エアマット5200枚、スポットエアコン20基、併せてプライバシー保護のためパーティション166基、テント425基備蓄し、令和7年度にはトイレトレーラーを導入し、生活環境の向上を図っている。

問　民間企業との防災協定の概要は。

答　災害時や災害が発生する恐れがある場合に、株式会社シーアールイーが管理運用する立体駐車場を車両の一時退避場所として提供いただくものとなっている。この協定により特に風水害時において、近隣の標高の低い地域住民の車両を被害から守る事前退避が可能となる。

不登校問題と社会性を育む教育

問　不登校と社会性を育む教育をどう両立させていくか。

答　不登校傾向の児童・生徒については、スペシャルサポートルーム、教育相談室での適応指導教室、各中学校にさわやか相談員の配置等をして、最終的に教室復帰を目標としており、学校では生きる力の育成、社会性を育む教育につなげていきたいと考えている。



商店会の設備維持管理

鈴木　宏樹　議員



商店会の街路灯と防犯カメラ

問　街路灯と防犯カメラの設置数は。

答　市内商店会が所有する３４１基のうち、不具合がある街路灯59基を確認している。

　防犯カメラは１２０基の設置を確認している。設置年は個々の設備について正確な設置時期を把握していない。年間の維持管理では電気料、保険料、設備の修繕に対する支援を行っている。

問　商店会と市の設備を統合しては。

答　長期的かつ持続可能な形で維持管理ができる仕組み作りに向け、商工会及び商店会連合会と市が一体となり、構築に向けて研究していきたい。

給食の材料調達と持続可能性

問　おいしい学校給食を守るためには。

答　一年を通して物価高騰等による食材価格への影響を総合的に見極め、大幅な食材購入費の不足が見込まれる場合、給食費として保護者負担か、市が物価高騰分を負担か、慎重かつ適切に判断する。育ち盛りの子どもたちに、質、量を落とすことなく安全安心な給食を継続的、持続的に提供できるよう適切に取り組む。



市民の声を駅前整備に

小林　久美　議員

問　民間開発で東武ストア隣接道路が５・５ｍに拡幅される。歩行者や車の動線と安全確保は。

答　幅員４・５ｍの緑地による歩行空間と歩道橋を整備し、歩車分離の歩行者動線を確保する。

問　将来の変化を見据え、駅前整備に可変性を持たせることについて市の考えは。

答　重要と認識している。駅舎の建て替えや環境変化が生じた際には、その時代のニーズに応じて柔軟に対応する。

問　駅前広場の整備で、市民や駅利用者から意見を聞く機会を設ける考えは。

答　現段階では市民アンケート等による意見集約ではなく、近隣商店街、鉄道事業者、埼玉県警などとの協議を進める。将来、環境変化が生じた際には、意見聴取の方法を考えたい。

職位別の女性登用計画を

問　副課長級38・５％だが、次長級18・２％、部長級８・３％と、職位が上がるほど低下している。副課長級以上の一括した目標ではなく職位別の登用計画が必要ではないか。

答　各階層の数値目標は、指標や数値ありきの配置になる可能性があり、慎重に考える必要がある。

整備計画づくりが進む上福岡駅東口駅前広場



ふくし総合相談センターの周知

鈴木　美恵　議員

問　どこに相談したらいいのか分からないという人、複合的な困りごとを抱える人の相談を受けとめ支援する、ふくし総合相談センターのさらなる周知は。

答　様々な広報媒体を活用し、見やすく分かりやすい情報発信と、地域の身近な場所で相談につながる「つながる相談窓口」などの周知を図る。

　さらに様々な機会に、ふくし総合相談センターが困りごとに対し、まず、相談できる場所であることを知らせる周知啓発に努めていく。



どんな困りごとでも相談できる

災害時における子どもの居場所を

問　避難所において、子どもが安心して過ごせるスペース、遊びや学びのための場所の確保は。

答　子どもの遊びや学びのためのスペース確保については、現在の地域防災計画等に明確に位置付けていない。そのような中、こども家庭庁が「災害時のこどもの居場所づくりの手引き」を策定した。本市でも令和10年度から11年度に予定している地域防災計画の見直しの中で、子どもの居場所の確保について明確に位置付けて取り組んでいきたいと考えている。



放課後児童クラブ支援員の処遇改善

塚越　洋一　議員



急がれる支援員の処遇改善

問　人材確保困難時代に向け、生活給の保障、定期昇給など支援員の処遇改善を。

答　子どもたちが慣れ親しんだ支援員が勤務を継続できるよう、モニタリングを通じ労働環境を確認している。指定管理者が安定した運営を継続できるよう体制を整えている。

中学校給食の無償化を

問　近隣自治体で次々と実施している中学校給食無償化について市の見解は。

答　各自治体が競うように取り組むものでなく、国の施策として統一的に実施されるべきと考えている。引き続き国の動向を注視していく。

地蔵街道の歩道と交差点の整備

問　隅切り・歩道拡幅・電柱の移動等できるものから改善を。

答　土地利用の変換や開発の際に必要性を説明し、用地の確保ができるよう対応していく。

市民憩の森の存続を

問　市街地に残された貴重な緑の空間である。市が買い取るべきでは。

答　購入は難しいと判断している。開発の動向等を踏まえ、市が所有する土地の在り方について検討していく。



文化施設に楽器の整備

民部　佳代　議員

問　来夏開館予定のステラ・セントラルに設置予定の楽器は。

答　地下ホールにグランドピアノ、隣のスタジオにアップライトと電子ピアノ、また多目的ルーム等で活用できる電子ピアノを設置予定である。

問　ステラ・イースト３階多目的ルームにはかつてグランドピアノがあった。活用されていないカフェ横のアップライトピアノを３階に移設しては。

答　移設は可能だが、利用団体の意見を聞きながら柔軟に検討する。

問　ステラ・ウェストでは市民団体や中学校吹奏楽部の演奏会などが行われるが、ティンパニやマリンバなど大型の楽器は運搬が困難で利用者の負担となっている。計画的に整備しては。

答　運搬の負担は認識している。利用者のニーズを聞き設置すべき楽器を検討する。

給水スポットの設置を

問　プラごみ削減や熱中症対策のため、公共施設にマイボトル用給水スポットの設置を。

答　環境や健康面に効果的だが費用や衛生面が課題である。必要性や効果を検証し各施設と協議し検討する。



運ぶのも一苦労



上福岡駅東口の民間開発

床井　紀範　議員



北野地区から上福岡駅への道

問　交通動線は、周辺の生活道路との関係でどう変わるのか。

答　東武鉄道が所有する敷地内通路は、車が通り抜けない計画だが、敷地内通路沿いに幅員４・５ｍの緑地による歩行空間を整備する計画である。

　さらに、事業者により東武ストアから新たに歩道橋を設置する計画で、歩道橋を利用することにより、駅改札から緑地による歩行空間へとつながる計画となる。北野・大原方面の住民や新たに建設される共同住宅の住民も歩車分離される歩行者動線が確保される。

公園遊具の充実とボール遊びを

問　インクルーシブ遊具を積極的に導入・拡充を。

答　西ノ原中央公園には導入を検討している。

問　もっとボール遊びができる公園を。

答　今後も考えていく。

小・中学校校外学習保護者負担の軽減を

問　物価高騰が進み、小・中学校の校外学習の保護者負担が重くなっている。市として公費負担の考えは。

答　今後も各学校とともに、継続的に負担の軽減に努める。また、就学援助制度をはじめとした支援制度の適切な運用に引き続き取り組んでいく。

気楽にできる環境政策を

小林 憲人 議員



問 広く市民にゼロカーボンシティを涵養していくうえで、マイボトルの推奨やオリジナルボトルの開発をしては。

答 環境基本計画及び一般廃棄物処理計画の策定の中で、議論を進めていきたい。

こども誰でも通園制度をより良く

問 保護者の喜びの声がある一方、現場を担う保育士からは負担が増えた、リスクが大きいという声がある。認識は。

答 対応の困難さや面談などの調整の難しさがある。事務負担の軽減について、今後の改善が必要と考えている。

老障介護の対応に早期対応を

問 新高額障害福祉サービス等給付費の対象者に、アウトリーチをかけていくべきでは。

答 手続が困難になる前の段階から、積極的に関わっていくアウトリーチの取り組みについて検討していく。

生き生きと働ける環境を

問 教職員の負担軽減や教職員を守るために、スクールロイヤーの配置をしては。

答 現場における相談内容や件数の動向、費用対効果など、多角的な視点から慎重に見極める必要がある。

旧江戸屋の利活用計画

山田 敏夫 議員

問 文化財としての旧江戸屋の利活用計画は。

答 旧江戸屋の建物は、明治初期の建築と伝えられ、明治26年に作られた旧江戸屋の家相図にも描かれる主屋と穀蔵の2棟と、個人所有となっている文庫蔵1棟の3棟で構成されている。

県内でも貴重な明治時代の景観を残す歴史遺産の文化財であると認識しており、今後、文化財の指定と併せて福岡河岸一帯での保存整備、活用を図っていきたい。



旧江戸屋

新河岸川沿いの斜面林の管理

問 貴重な緑の斜面林が雑木などで密集し、荒れた状態で不法投棄の場ともなっている。適切な管理をしては。

答 定期的な樹木剪定や管理上支障となる枯れ枝や雑木の処理などを行っている。

また、緑地公園全体の整備計画を策定し、専門家の知識や意見を取り入れるなどの対策が必要と考えている。

福岡中学校改修工事

原田 雄一 議員

問 本来は議会の議決後に工事が着手されるはずだが、議決前に工事が着手された経緯は。

答 国土交通省の設計変更ガイドラインを受けて工事主管課では変更契約の手続を行ってきた。変更契約の議決が必要な工事であってもガイドラインの運用が適用されるとした解釈の誤りが議決前着手の一因となった。

問 福岡中学校以外での議決前工事は。

答 調査したところ15件あった。

問 市民へ周知は。

答 不適切な事務執行について、市長の謝罪を含めホームページで公表した。

大井・苗間第二地区の将来

問 現在の苗間地区の道路は、狭あいで曲がりくねり大変危険で通りにくいが区画道路を設置しなくてよいのか。

答 権利者と調整を進めてきたが、一部の権利者の承諾にとどまり、他の権利者からの承諾を得られず、地区施設道路を位置付けることが困難となった。

問 大井・苗間第二地区は、都市計画道路を廃止して区画道路も設けないで開発が進み、大丈夫なのか。元県都市整備部長である副市長の見解は。

答 今後については地域の特性をみながら、地元の意見を踏まえ考えていく。



議決前工事の普通教室

ギカイの動き

議会運営委員会視察調査報告

さらなる議会活動の活性化

議会運営委員会では、7月15日及び16日の日程で石川県加賀市と能美市を訪れ、議会活動の活性化についての視察研修を行いました。

加賀市議会では、住民参画を促すため、対象別議会やオンライン意見交換会、議会だより市民モニター制度、市民アンケート、出前講座を実施していた。また独自の取り組みとして計画・手順や経過・実行・検証・改善を組み合わせたPPDCAサイクルを導入し、議会改革や議会活動の検証・改善を行っていた。

能美市議会では、議員間討議を議会基本条例に明記して行っていた。また電子採決やオンライン委員会の開催など議会DXを推進し、動画配信についても積極的に取り組み、本会議のライブ配信のほか、意見交換会の様子を要約し配信しているということだった。さらに地元紙やケーブルテレビとも連携し、市民に向けて積極的に議会情報のアプローチを行っていた。

両市議会において議会広報紙が市民の声を反映し、カラー化や写真、市民記事を充実させた魅力的なものとなっていた。

本市議会も市民参加、情報公開、運営効率化、議会だよりの充実に努めていきたい。



加賀市での視察の様子

市民・都市常任委員会視察調査報告

上下水道インフラの老朽化対策と農業振興を学ぶ

市民・都市常任委員会では、7月22日及び23日の日程で福島県会津若松市と会津美里町を訪れ、上下水道インフラの老朽化対策と農業振興について視察研修を行いました。

会津若松市では、人口減少に伴う水道使用量や料金収入の減少、施設の老朽化、技術者不足などヒト・モノ・カネの課題について説明を受けた。対策として、AIを用いた管路劣化度診断やIoTを活用した監視型漏水調査、高校生への出前講座、広域連携などに取り組み、効率的な施設更新や有収率の改善を進めていた。

会津美里町では、水稲と高収益な園芸作物を組み合わせた複合経営が行われていた。圃場整備では、営農経費約28％の軽減、作物生産額約24％の向上を目指していた。また、担い手不足や農家の高齢化などに対応するため、新規就農者への補助や地域おこし協力隊の受入れ、スマート農業を推進していた。地域計画はワークショップ形式で策定し、集落ごとの現状や課題を共有していた。

今回の視察で学んだことを、本市でできることから生かしていきたい。



会津若松市での視察の様子

高校生議会

高校生が描く「もっと住みやすいふじみ野市」

７月30日に高校生と市議会議員が直接意見を交わす「高校生議会」を開催しました。グループワークや議場での発言を通して、高校生ならではの視点からまちの未来について考えました。

高校生は議会の仕組みについて説明を受けた後、「ふじみ野市を住みやすいまちにするには」と「ふじみ野市に欲しいもの」をテーマに議員とともにグループワークを行った。日頃感じていることや、これからのまちに期待することについて活発に意見を交わした。

高齢者と関わる機会を増やしたい、子どもたちが楽しく過ごせる公園や場所が欲しい、ごみを少なくしたい、といった意見のほか、公共交通の充実や道路整備、市内循環ワゴンふじみん号の利便性向上など、身近な生活に関する提案も出された。一方で、公共施設がきれい、都心からアクセスしやすいなど、まちの良さを評価する声もあった。

最後は、議場での高校生の発表を受けて、議員が講評を行い、それぞれの意見や着眼点について感想を伝えた。

高校生と議員が、ふじみ野市の未来を考える貴重な機会となった。



議場で記念撮影をする高校生と議員

連載企画

子どもたちに聞きました

子どもたちの夢とまちへの思い

ふじみ野っ子の好きなこと・楽しかったこと

ふじみ野っ子まつりに来ていた小学生に、好きな教科やイベントの感想などを聞きました。

Q 好きな教科は何ですか。

A さくさん　社会科が好きです。

A さらさん　図工が好きです。絵を描くのが好きで、地元のお祭りのマスコットキャラクターを描いたこともあります。でも将来はかっこいいので弁護士になりたいです。

Q 今日のイベントで楽しみにしていたことは。

A さくさん　市長とのじゃんけんが楽しかったです。勝ったのがうれしかったです。賞品ももらえました。

A さらさん　私も市長とのじゃんけんです。負けちゃったけど、市長さんの似顔絵を描いて渡せてよかったです。

Q いつも何をして遊んでいますか。

A さくさん　友だちとおしゃべりをしたりしています。

Q ふじみ野市の好きなところは。

A さらさん　いろんな施設に行きますが、勉強できる場所があるのがいいなと思っています。



岩﨑（いわさき） 彩楽（さら）さん



眞栄田（まえだ） 朔（さく）さん

総務・教育常任委員会意見交換会

不登校支援の充実を求めて

不登校児童・生徒の保護者との意見交換会で、経済的支援や進路情報、居場所、保護者支援などについて質問や要望が出されました。

７月29日に行われた意見交換会では、子どもや保護者が抱える様々な課題について、質問や要望が出された。経済的支援では、フリースクール利用料や送迎費、保護者の就労制限などの負担を踏まえた支援制度の検討や、登校状況に応じた給食費の日払い対応などを求める意見や、進路情報を得る機会として、通信制高校やサポート校などを集めた相談会や個別相談の開催、学校内の居場所となる支援ルームの利用可能日程の周知や支援員の充実を求める意見が出された。

さらに、スクールソーシャルワーカーの体制強化、保護者同士がつながり情報交換できる場の確保、学校生活での合理的配慮、健康診断を受けられる仕組み、放課後等デイサービスの利用負担軽減などについても、声が寄せられた。



意見交換会の様子

生活・福祉常任委員会意見交換会

介護予防について意見交換

市立介護予防センターで運営事業者と介護予防の取り組みや利用状況、地域との連携など、今後の取り組みについて意見を交わしました。

6月30日に介護予防センターを視察し、令和7年度に実施した先進地視察や本年第1回定例会での高齢者福祉に関する審議内容の報告及び運営事業者との意見交換会と施設見学を行った。

事業内容や利用状況について説明を受け、運動・栄養・社会参加を柱とした取り組みのほか、利用者同士の交流や菜園ボランティアなど、地域とのつながりを生む活動について理解を深めることができた。

意見交換では、次のような意見が出された。

- 利用者の男女比に差があり、男性利用者の参加促進が今後の課題
- 地域団体や自治会、大学等との連携をさらに広げる必要性
- 40代・50代から健康づくりや食生活、社会参加への意識を育み、介護予防につなげる取り組みが必要
- 体力や時間など、それぞれの状況に応じて参加できる事業の充実



介護予防センターの施設見学

編集委員がインタビュー！

表紙：働く人シリーズに寄せて

かき氷屋さんに伺いました

Q かき氷店を始めたきっかけは何ですか。

A 昔からかき氷が好きで、食べ歩きもしていました。いつか自分のお店を持ちたいと思い、まずカフェ経営を学びました。自分の好きなものを仕事にしたいと思い、都内のかき氷専門店で修行したことが、お店を始めるきっかけになりました。

Q メニューはどのように考えているのですか。

A 思いついたアイデアはいつもスマホにメモしています。それを実際に試作して、味を確かめながらメニューにしています。期間限定メニューは週替わりで出すこともあります。食べることはもちろんですが、作ることのほうが好きなんだと思います。

Q 大切にしていることは何ですか。

A お客様に飽きずに楽しんでいただくことと、自分のお店らしさを大切にしています。ＳＮＳなどではいろいろな意見がありますが、それだけに左右されるのではなく、自分が作りたいと思うものに挑戦しながら、新しい味を届けていきたいです。

Q かき氷は夏のイメージですが、冬も楽しめるものですか。

A 一年を通して楽しんでいただけます。冬は冬ならではの食材があり、季節に合わせたメニューを作ることができます。夏だけではなく冬にもかき氷を食べたいと思っていただけたらうれしいです。

Q 最後に皆さんへ一言お願いします。

A かき氷は季節によっていろいろな味を楽しめます。これからも新しいメニューに挑戦しながら、自分のお店らしいかき氷を作っていきたいと思います。
　ぜひ一年を通して楽しんでください。



原（はら） 瑞稀（みずき）さん

市議会だよりは、ふじみ野市のホームページからも閲覧できます。
市議会の会議録も見られます。
録画放映やSNSもご覧ください。

ふじみ野市議会　検索

9月定例会の傍聴者は62人でした。

次の定例会の
開会予定：11月30日 午前9:30～

市役所４階議場で開催します

請願締切予定：11月20日 午前10:00

議会広報常任委員会

委員長	床井　紀範	副委員長	古越　孝子
委員	小林　久美	委員	田中　早苗
委員	前田　広子	委員	鈴木　宏樹
委員	鈴木　美恵		

市議会議員による時候のあいさつ状、寄附行為等は、法律で禁止されています。ご理解をお願いします。

表紙の題字を書いてくれた人

福岡中学校３年生 近野（こんの）　未来（みらい）さん



私は中学１年生から所属している吹奏楽部で、バスクラリネットを始めました。現在は、ソロコンテストに挑戦し、日々練習をしています。将来は、より多くの人にバスクラリネットの魅力を伝えていきたいです。

編集後記

9月に新しい市立博物館が開館しました。長く資料館に携わってきた私にとっても、今回の開館は感慨深い出来事です。歴史を学ぶことは、過去を知るだけではありません。なぜ今のまちがつくられてきたのかを知ることで、これからのまちづくりや行政運営を考える視点にもつながります。

今回の定例会では、前年度の決算を審査しました。税金が適正に使われたのか、事業が本来の目的に沿って行われたのか。一つひとつの事業について、その先にある市民の暮らしを思い浮かべながら質問することの大切さを改めて感じました。

これまでを知り、今を見つめ、これからを考える。

そんな視点を大切にしながら、これからも皆さんに身近に感じていただける議会だよりを目指していきます。（小林久美）

編集・発行／埼玉県ふじみ野市議会
〒356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡1-1-1
TEL 049-262-9046　FAX 049-269-4847（議会事務局）